



米沢市職員労働組合青年部編

取り組みテーマの決定！

まずはみんなで話すところから

前号で自治研チャレンジサポートへの挑戦を決めた米沢市職労青年部のみなさん。役員が集まって会議を開き、忌憚のない本音トークのなかから、取り組みたいテーマが浮かびあがってきました。

今回、紆余曲折を経て、「新書記と青年部の成長（変化）の記録」というテーマで自治研チャレンジサポートに取り組むことに決めました。

まず、「自治研をしてみよう」と言われても、「自治研」は良くわからないし、参加するのもはじめてで、何をしても良いかわからないメンバーが大半でした。というか、メンバー集めからだいぶ苦労しましたね。人はなんとか集まっても、最後までみんなちゃんと一緒にやってくれる

の？と疑心暗鬼になったメンバーすらいたほです（笑）。

自分なりに調べて、「住民サービスの向上のため活動することができ、組合は労働条件のためだけに運動をしているのではない」ことがわかったというメンバーもいて、すでに「いい変化」を感じています。

テーマの設定ですが、民間企業の仲間や、地域の人たちを巻き込むことは必要とわかっていながらも、集まったメンバ

てみようと思います。

「変化」といえば、書記を採用する、という時点で、すでに労組には「変化」が起きているわけで、我々は「変化に巻き込まれている」という哲学的なことをいうメンバーもいました。米沢市職労哲学部の部長に推薦したいほどです。

たぶん、住民サービスの向上というのも、実際は、住民も我々も期待と不安がものすごいものだと思います。良くも悪くも、「今までとは違う」わけですからね。なので、自治研究の取り組みを通じて慣れておこうと思います。

まとまりのない感じになりましたが、読者の皆様には、温かい目で、期待しないで見守っていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。



米沢市職員労働組合 青年部長 安部裕貴

「人は人見知りする連中ばかりだし、悲しいけど、そんなに顔も広くない（笑）。それに、巻き込むだけ巻き込んでおいて、「成果はなくてもいいよ、変化を実感してみようよ」というのは、なんとなく気楽にできそうな気がしませんでした。ということで、まずは身近なところから「成長記録」ということになりました。まあ、どんなテーマでやるにしても手探りでやるしかないんですけど、身内だけであるならいろいろオープンにやれるかな、と。そして、慣れてきた頃に民間の人とも話してみようと思います。

取り組みの核となるところは、「いろいろ話を聞いてみたい！」というところになるかと思っています。新書記はなぜ労組の書記になろうと思ったのか、退職する書記は書記生活をどのように過ごしたのか、というところはもちろんですが、そもそも、メンバーもそれぞれ関わっている業務が異なるため、他の人の業務はどうなんだ、というところからはじまるのかも

安部青年部長とは同期です。私から青年部長を引継ぎ、また、この自治研の取り組みを通じ、安部部長の成長を実感しています。

自治研の取り組みを始めるとき、彼が私に言った一言が忘れられません。「……えーと、なんて言ったんだっけ。忘れてしまいました。」

まず、「ゆるい取り組みはゆるい組織から」が米沢市職員労働組合青年部事務局長のポリシーです。こんな感じで、これからもよろしくね、安部部長！

事務局長からついでに……



米沢市職労青年部事務局長 高橋大樹

第二関門突破！

「君たち、何か困ってることない？」 UNDER35が合宿をした鯖江市役所のJK課メンバーが、オリジナル「アプリ」を作ろうと地元でIT企業を訪れたとき、指導役の社長がまず言ったのが冒頭の疑問でした。「そんなことがアプリ作りに関係するの？」と驚く彼女たち。でも結果、そこから市立図書館の学習スペースの空き状況をネットで閲覧できるアプリが生まれました。

難しい理屈より、顔を突き合わせ世間話をするのが自治研の一番の近道。その意味で皆さんは「自治研入門」の第一関門を、すでに突破したのでは？

（自治研マイスター）